



5 月 園だより



2026 年 5 月 1 日

ききょう保育園

入園、進級から1か月が経ちました。ゆったりとした親子登園から、慣れ保育が始まりました。0歳児や新入園児さんのいる部屋からは、賑やかに泣き声が聞こえていましたが、中旬を過ぎると泣き声が聞こえない時間が増えてきました。今では、お家の方と離れるときに泣いても、保育者に抱っこをされたり、玩具を手にとったり、好きな場所に行ったりすると間もなく泣き止んでいます。

4月は、胃腸炎でお休みになった子がたくさんいました。保健所と連絡を取りながら終息に向けて対応しているところです。体調面では、風邪などの感染症に繰り返し罹り、登園できずに保護者の方がお仕事を調整されることもたくさんあるかと思います。それでも、子どもたちの成長とともに、徐々に罹る回数は減っていきます。小さいうちは特に、病児保育や病後児保育なども利用しながらこの大変な時期を乗り越えて欲しいと思っています。応援しています。園だよりの後半でお知らせを記載していますが、今年度、在園児保護者向けのトークカフェを年4回、企画しています。第1回は6月です。新年度が始まり、何かと慌ただしい時期に、お迎え前の少しの時間、ほかの保護者の方と悩みをシェアしたり、育児のヒントをもらったりできる、“トークカフェ”に立ち寄ってみませんか。

さて、進級した子どもたちは、新しい担任や生活に慣れてのびのびと過ごしています。5歳児は、活動の中でリーダー的な存在になり、5歳児だけの活動も行うようになって張り切っています。

5月は、園庭で砂、土、泥、水あそびが本格的に始まります。全身を使って楽しんで欲しいと思います。

5 月の予定

- 1 日(金) 身体測定①
- 7 日(木) 身体測定②
- 11 日(月) 2 歳児保育参加～22 日
- 13 日(水) 春の健康診断
避難訓練
- 16 日(土) ふれあい動物園(鶴川中央公園)
- 19 日(火) 江ノ島水族館遠足(5 歳児)
- 26 日(火) ツクイ訪問(5 歳児)
はいチーズカメラマン撮影(日常の保育の様子)
- 29 日(金) 誕生会
- 30 日(土) 小学生太鼓教室

※中旬より、学生の保育実習が始まります。

5月の予定

保育参加期間スタート

11日(月)より、すみれ組(2歳児)からスタートします。子どもたちが保育園でどのように過ごしているか雰囲気を感じ、保育を実際に見て、知っていただく機会にしたいと思います。しかしながら、子どもたちにとっては、自分や友だちのお家の方が1人でも保育室にいること自体が非日常です。嬉しくて、抱っこをしてもらったまま離れない、友だちが自分のお父さんやお母さんにくっつく、「来ないで」と泣いたり怒ったりすることもあります。そのようなときは、お子さんの気持ちを受け止めながら、周りの子どもたちのようすを見て、「いつもはこんな感じで遊んでいるのかな？」などイメージしていただけたらと思います。お困りのことがありましたら、遠慮なく担任にお声がけください。

この日の給食は、希望される方に食べていただいています(実費徴収あり)。参加後は是非、感想をお寄せください。参加してみて、気になったことやご意見など、そして、よかったことなども合わせてお願いします。

※ 個人情報保護の観点から、保育参加中の保護者による写真や動画撮影はご遠慮いただいております。
また、通常保育や園が主催する行事などについても同様です。

16日(土)ふれあい動物園 in 鶴川中央公園 芝生広場

10:00-14:00(12:00-13:00は動物たちの休憩時間です)

昨年度は、雨天のため中止となりました。今年度こそ開催できたらと思います。土曜日保育利用の園児以外は、親子で自由参加となります。ウサギ、モルモット、チャボなどに触れたり、一人で乗れる未就学児はポニーに乗ったりして、命のぬくもりを感じ、五感を使って楽しむ機会にして欲しいと思います。



19日(水)ききょう組(5歳児)江ノ島水族館遠足

鶴川駅から小田急線路線に乗って片瀬江ノ島まで行きます。水族館では、友だちと一緒に海の生物を観察して楽しみたいと思います。また、海の生き物を知るだけでなく、公共の交通機関を利用して現地へ行くことで、社会のルールやマナーを知る機会にもしたいと考えています。

30日(土)小学生太鼓教室

卒園生を中心に、毎月1回集まり、保育園の頃に叩いた和太鼓、「八丈島太鼓」を練習していきます。学年ごとにステップアップし、少しずつ難しい口伝を叩いていきます。ここでも、年上の子から年下の子へ、子ども同士の伝え合い、学び合いの姿が見られます。12月5日(土)に鶴川市民センターで行う荒馬座公演の日に、小学生太鼓のメンバーも舞台に立ち、それまでの成果を発表します。

4月の保育園

1日(水)入園の会

今年度、0歳児から5歳児まで、計17名の子どもたちとご家族がききょう保育園に仲間入りしました。みなさまにお集まりいただき、ささやかな会を行いました。進級した年の年長組の子どもたちから、新入園のみなさんに歌のプレゼントをしました。♪幸せならてをたたこう、♪つくしんぼ。…この「ぽっとでた ぽっとでた つくしんぼ…♪」と歌う♪つくしんぼは30年以上前の入園の会の朝、当時のききょう保育園の保育



者が思いつき、園児の前で披露したことから歌い継がれています。今ではききょう保育園の外にも拡がり、春の手あそび歌として親しまれています。2023年に、キングレコードのこどものあそび歌 CD の中でも紹介されました。

15日(水) 真光寺公園遠足(5歳児)

平和台入り口のバス停から、真光寺公園行きのバスに乗り、公園のひとつ前のバス停で下車。尾根道を散策しながら真光寺公園へ入りました。遊具や虫探し、リレーなどを楽しみました。待ちに待ったお弁当の時間はみんなが笑顔で嬉しそうでした。



18日(土) 親子遠足 in 薬師池公園



心地よい天気の中、親子遠足を開催いたしました。保育園から1時間半ほど歩いて現地を目指した親子も、現地集合の親子も、みんなで一緒にお弁当を食べて交流しました。あじさい広場からも参加があり、賑やかな時間を過ごしました。

近隣小学校、中学校入学式

小学校、中学校入学式の後、卒園生が晴れ姿を見せに来てくれました。保護者のみなさんも一緒に、職員と嬉しいひと時を過ごしました。これからも成長の節目に、大きくなった姿を見せに来て欲しいと思います。



4月の一コマ



お知らせ

◆ 6月5日(金)保護者向けトークカフェを開催いたします。

「ひといきチャージカフェ～お迎え前の立ち寄りトーク。みんなで話せば心が軽くなる～」

あじさい広場において「キャリアデザイン講座」などを担当して下さっている、キャリアコンサルタントの講師の方に進行していただきます。途中入退場も、もちろん可能です。ひといきつけるよう、お菓子とドリンクをご用意してお待ちしています。

◆ 今月の園だよりには、職員研修の概要を掲載しました。園の取り組みとしてご確認いただければ幸いです。

みんなではじめる 性教育

～ 保育の現場に 包括的性教育の視点を ～

性教育は、子どもたちの安心を守るうえで欠かせないテーマといわれています。しかし、それぞれの価値観によって受け止め方が揺れやすい分野でもあります。今年度は、保育園できちんと取り組む体勢に入るために、職員全体で学びの一年とすることになりました。

昨年度、職員が外部の学びに触れる機会を持ち、そこから一步を踏み出しました。その中で、「保育に包括的性教育の視点を」という研修を受講した職員から報告を受け、これまで「生殖」など部分的な学びとして捉えられることの多かった性教育が、子どもの心と体を幅広く支える“包括的性教育”という大きな枠組みで考えられていることを知りました。

今年度は、その研修の講師をされていた、藤野早織先生に伴走していただきながら、「包括的性教育」を保育に生かしていくための学びをスタートしました。4月に入り、まずは、ききょう保育園で働くすべての職員を対象にした全体研修会を行いました。今年度は、この他にも年に 3～4 回、先生にお越しいただき、実際の保育の様子を見ていただきながら、助言を受けつつ取り組みを進めていく予定です。

「自分の好きなこと教えて」

職員全体研修会の翌週から、5歳児の集まりの時間を利用して、担任が新たな取り組みを始めていました。

〈 担任の記録より 〉

◆「僕は家にあるレゴが好きなんだ」

◇「すごいっぱいある？」

◆「そうだよ3つくらいある」

…質問をされると少しはにかんだように話していた。

◇「今日も帰ったらやるの？」

◆「んー今日は帰ったら DVD 見るつもり」

集まりの後も子ども同士で、

「このくらい高いもの作ったことあるよ」「うちにもある」など話していた。

「自分のときは何を話そうかな」と楽しみに考えている子もいた。



… ◆話す子 ◇聴く側の友だち

はじめに、みんなで下記のルールを確認。

- ① 「しゃべる人」以外は「聞く人」
- ② 話すことはお家のことでも保育園のことでもどちらでもいい。
- ③ もっと知りたいなって思ったら手をあげて聞いてもいい。

～ 集まりの中で、ひとり一人がゆったりと話しをする時間をつくっているそうです ～

「自分の好きなこと教えて」の背景

職員全体研修会の中で、あるワークがありました。ペアになって、「自分の好きなことを相手に話す」、相手は「興味深く聴く姿勢を持つ」というものでした。実際に行って見て「自分の好きなことを誰かに興味を持って聞いてもらえる体験は心地よかった」「好きなことを話している姿は、とても嬉しそうだった」などの感想がありました。その体験を踏まえての取り組みでした。私たちが学んだ心地よさを、今後も子どもたちと共有していきたいと思います。

藤野先生からも、文章を寄せていただきました。

はじめまして。藤野早織です。

小児科で10年、保育園で12年、看護師としてお子さんや保護者のみなさんとたくさんの時間を過ごしてきました。

現在はフリーランスの看護師として、多摩地区を中心に、現場にいた私だからできる性教育を届ける活動をしています。性教育を通して、子どもも大人も“自分っていいな”と感じられることを大切にしています。

「性教育」と聞くと、少しドキッとされる方もいらっしゃるかもしれませんね。

実は私自身も、この活動を始める前はそう感じていました。

乳幼児期の包括的性教育。

はじめの一步は「自分を知る」こと。

乳幼児期の子どもたちは、

「自分でやりたい!」「なんで?どうして?」と、たくさんの気持ちにあふれています。

その気持ちに応えてもらう中で、「自分って大切なんだ」と感じることに。

それが、この時期にとっても大切な土台になると考えています。

特別なことを教えるというよりも、日々の暮らしの中で、子どもたちが安心して自分らしくいられること。

そして、大人もその姿を安心して見守っていけること。

そんな日々の積み重ねが、自分やまわりの人のからだや心を大切にする力につながっていきます。

日々の保育の中に、すでにたくさんの包括的性教育の芽があると感じる、ききょう保育園さん。その関わりに少しずつ言葉を添えながら、今年度、先生方の取り組みをサポートさせていただきます。

スタッフの岸本（保育士）と一緒に園に伺いますので、お会いする機会もあるかと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

藤野先生の文章つづきです。↓

【おうちではじめる 性教育】のヒント

子どもたちは、「おなじ」や「ちがう」を見つけるのがとても上手です。
それはからだのことで同じで、私たち大人が少しドキッとしてしまうようなことも、聞いてきてくれることがあります。

どうですか？ お子さんの知りたい！ に、答えられそうですか？
ここでは、“答える”から“応える”に、少し視点を変えてみたいと思います。
大切にしたいのは、「聞いてもよかったんだ」、そんな安心を子どもたちに届けていくこと。
まずは「よく気がついたね」「教えてくれてありがとう」と返してみましょう。
そしてひと呼吸。これが不思議と、少し落ちつくんです。
そうしたら、「どうしてそう思ったの？」や「なんでそれが知りたかったの？」と聞いてみると、
子どもたちが何を聞きたいのかな？に関心を寄せることができます。

とは言っても、何が聞きたいのかがわかったからといって、答えられることばかりではないですよ。
そんな時は、「わからないから調べておくね」や「園長さんに聞いてみるね」と時間をもらったり、
「一緒に調べてみようか」と絵本などを使って調べてみるのもいいですね。

大人は間違えずにきちんと答えを伝えることに意識が向きがちですが、
きもちに応えてもらえたと感じる、そんな積み重ねが、
教えてくれる人から、困ったことがあったときに「話してみようかな」と思えることにつながって
いきますよ。

最後まで読んでくださり、ありがとうございます。
今回は長くなってしまいましたが、
今後も先生方の取り組みを通して感じたことや大切にしていることを、お届けさせていただけたらうれしいです。

ご家庭で、不明な点や心配なことなどがありましたら、いつでもお知らせください。